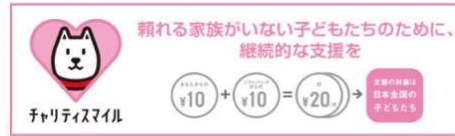


# 第3回「安心して社会に巣立とう」応援助成 活動内容報告書



団体名	NPO法人こどもサポートネットあいち
-----	--------------------

助成金を活用した取り組み内容 ※具体的に実施内容を記入してください

## 1. ソフトバンク・チャリティースマイル「第3回安心して社会に巣立とう応援助成」 社会的養護等退所前児童と退所後の児童への支援事業

### ①相談事業の目的

当団体は11年前から社会的養護等施設出身者を含めて現在施設にいる児童に対しても支援をしてきました。支援内容としては、社会的養護で生活した当事者が自立するにあたって、それぞれが抱えている問題点を明確にし、当該地域における自立支援の定着と全国への展開をすることを目的に社会的養護等の当事者の自立支援相談事業を行うための電話および来所相談事業（宿泊・再就職等）を中心に実施してきています。

今年度第3回ソフトバンク・チャリティースマイル「安心して社会に巣立とう応援助成」をいただきましたので、活動内容の幅を広めたいと社会的養護等施設の子どもや社会的養護等施設を退所された他府県から進学・就職・転職等で名古屋に来られてご不安の方への支援を側面的に援助させていただきました。

### ②【相談内容】

- ◎他府県から来られた方で施設出身者・里親出身者等で相談できず悩んでいる方。
- ◎他府県から来られた方で進路等に悩んでいる人、相談したい社会的養護等当事者の方。
- ◎他府県から来られた方で再就職や職場での問題で悩んでいる社会的養護等退所者の方
- ◎他府県から来られた方で生活問題・自立支援等相談をしたい社会的養護等当事者の方
- ◎その他、他府県から来られた方で社会的養護等施設や里親等のことで相談をしたい方

### ③相談内容・相談件数（2019年4月～2019年12月）

#### 第3回「安心して社会に巣立とう応援助成」相談内容

	電話相談	メール相談	当事者来所	訪問相談	宿泊相談	合計
4月	141	68	16	7	0	232
5月	157	64	13	7	0	241
6月	181	77	17	2	0	277
7月	207	84	39	14	8	352
8月	207	65	27	3	0	302
9月	162	67	30	1	0	206
10月	147	77	13	2	0	239
11月	138	69	16	7	1	231
12月	168	108	26	7	0	309
合計	1,508	679	197	50	9	2,443

#### ④相談状況

平成18年度・19年度にソフトバンクチャリティースマイルから助成金については、従来の子供の未来応援基金の助成では東海3県（愛知県・岐阜県・三重県）を中心に相談に対応してきましたが、相談範囲を東海3県以外で全国から東海3県に進学・就職をしている当事者を対象に相談を進めてきました。19年度からのソフトバンクからの助成ではホームページにて紹介をとのご指摘があり、一部チラシを作成しましたが、ホームページにおいても紹介させていただきました。相談内容においては①電話相談、②当事者来所相談、③メール相談、⑧宿泊相談を中心に1年間取り組んできました。やはり宣伝が十分でないのか、ホームページを見ていないのか東海3県に比べて相談件数が少なかったです。相談内容ではやはり20歳～25歳までの相談が1番多かったです。

それでも中国地方・関西地方・関東地方・北陸地方・東北地方等からの相談がありました。当団体に直接施設長さんからの相談や児童相談所と施設・担当職員と当事者と一緒に相談に来られたケースもありました。

3ケースを紹介しておきます。

1つ目のケースは、本人（奥さんが小・中学校を施設で生活して中学卒業後美容師として就職をした当事者です。）本人からの話では結婚をされていて一度ラーメン屋を開業したが、借金をして行き詰ってしまい自殺未遂を起こして、弁護士の方に入っただき破産宣告をして他府県から名古屋に引っ越した事例です。自殺未遂をしたことも影響しているのか、名古屋に引っ越しても後遺症で精神科に通っています。夫の家族は東京におり、3年前ぐらいから仕事もまともにできないためご主人の地元の親の元に帰ることも話に出たですが、しばらくは生活保護をいただき何とか立ち直りに期待したケースです。一見問題ないようなケースでしたが結果的にはご夫婦共精神的問題を抱えて月1回精神科に通っていたため、仕事としてはアルバイト程度で週に1～2日程度しか働くことが出来ず、生活保護でやっていけなくなると電話相談があり、一時的にNPOとして資金援助をしたケースです。関東の地元に戻れば母親がアパート経営をしていて若干収入があるため生活保護の対象にはならず、一番苦しんだのは奥さんで親からの収入がほとんどなされず、自分でアルバイトを見つけて食べる分の収入を確保することが精一杯な生活でしたが、夫である本人は働かず、親からの若干の生活費をいただいて自分で使っただけで奥さんにはほとんどわたすことがなく、電話とメールで1日おきぐらいに相談に乗ってきたのですが、未だに改善が出来ず奥さんからのメールでは死にたい・死にたいとメールで送ってきていますが、励まして頑張るように支援をしていますが、このままではダメになってしまうので、奥さんだけ名古屋に戻すような支援が必要になってきています。東京の夫の家庭では邪魔者扱いにされているようです。奥さんには地元の区役所へ行って相談するようにメールでは伝えていますが、少し距離的な問題もあり、名古屋へ来るようになれば相談に乗るからいつでも困ったら戻ることも考えて生活するように伝えていきます。ご夫婦には子どもさんが2人おり一人は結婚して独立して生活をしているようで、関西で生活をしているようで相談にはあまり乗ってくれてないようです。もう一人は今年東京の大学に入学した娘さんがいますが、ほとんど自分でバイトをして一切親のお金をあてにしないで大学へ通っているようですが、親子関係もあまりよくなく、ほとんど家には寄り付かず自分でアパートを見つけて生活をしているようです。

2つ目のケースは、中国地方の施設で高校まで施設にいて卒業と同時に東京のコンピュータ関係の会社に就職をしたケースです。3年程して名古屋へ転勤となり、住まいは当団体の事務所から車で15分程度の所に会社が借りたアパートに住み名鉄電車で1時間位かかる会社に通っていたようです。コンピュータのプログラムの仕事をしていたようで、高校は工業高校を卒業しており、頭は良かったようで会社における仕事も他の従業員よりは優れていて任されるまでになっていたようであるが、任された仕事を失敗してから自棄になり、酒を飲むようになり1日で一升瓶を飲んでも何ともないような生活に

（利用者・スタッフの声なども、ご記入ください）

なって、そのうちに鬱状態になってクリニックにかかるようになる。

この時点で会社としては施設長に連絡をして退職をさせたいとの事で、突然施設長から明日名古屋に行きますので相談に乗っていただきたいとの連絡が入ったケースです。

施設長は会社へ行く前に当団体に相談に見える。施設長からは中国地方の施設であり、なかなか本人への対応が難しいので、できれば施設に代わって本人への相談に乗っていただけないかとの依頼を受け、引き受けることになる。施設長が帰られて2~3日たって会社の社長が訪ねて見えて今までの様子について話をされて1か月以内に荷物を全部引き上げていただきたいと話をされたが、今後の事もあるので、本人と話をしてからどうするかを決めるので、少し時間をいただきたいと話をし、翌日社長と一緒に本人が済んでいるアパートに伺う。コンピュータ関係の機器や本その他足の踏み場もないほどに荷物が散らかっていて簡単に片づけられるものでないにも関わらず、社長の方からは3週間で荷物を引っ越して欲しいと本人に告げるが本人はだんまりでこちらで何とかすると答えてその場から引き返す。あらためて翌日本人にNPOに来るように話して今後の対応を話し合うことにする。本人はこの時点で会社にも行っておらず、お金もなかったのかサラ金3社から80万円程をかりており、カードを使用しないように話をし、荷物についてどこに運ぶか話し合う。当団体では荷物を預かることはできるが、今後本人をどう生活させるかを考えて名古屋市が委託している相談センターに連絡をして一緒に動いていただくことを承諾いただく。センターの方で若干の荷物の引っ越しや緊急対応の食料品のお金を出していただけたので、2~3日NPOに泊めてこの間に区役所で生活保護の申請をして宿泊場所を確保することを最優先に話を進める。本人の荷物に関しては本人はもとより当団体の理事の車2台でピストン輸送で取り敢えず全てNPOの空いている部屋に運び込むことにして3日間かけて夜仕事を終えた2人の理事の協力で何とか搬出することが出来る。

生活保護施設で生活するようになって、夜退屈なので2週間くらいたって荷物を預けている中からコンピュータ関係の道具を取りに来て色々話してくれる。現在ハローワークで就職に向けた職場を探していることや施設の生活について語ってくれる。

サラ金から借りた約80万円は、本人が高校卒業して3年間真面目に働いて給料も高かったのか、失業手当等の手続きをしていただき、全額返済できることになり、仕事の方も色々探して生活保護施設から通いで2ヶ月程働いて、同じようなコンピュータ関係の仕事に就くことが決まる。2月22日に預かった荷物を車で取りに来て2往復して全部新しいアパートへ引っ越す。生活に必要な布団やレンジ等をこれから揃えていく事になるが、取り敢えず、仕事に就くことが出来て本人はほっとしたのか顔色もいつもより元気そうに見えて頑張るように励まして、まだまだ今後相談に乗ることがあれば遠慮しないで相談委来るように伝えておきました。

3つ目のケースは東北地区の施設から高校卒業して名古屋の介護施設に就職した女子のケースです。施設でここを卒業後、母親が名古屋へ転出したので名古屋に就職を求めて介護施設に就職する。施設のアフターケアで22歳の彼女に会いに来るために本人を連れて訪問したいと連絡を受ける。2月の中旬に施設の職員さんと本人が来所される。色々話しを聞いているとアパートは月50,000円で借りたが3年間自炊をしたことがなく調理に必要な道具もないとのことで、ほとんどが施設の食事とコンビニや外食で済ませていたようで、母親とは連絡をほとんど取ってなくて施設の職員も今回アフターケアに来て初めて実態がわかりましたが、本人にほとんど指導をせずに帰っていかれる様子で先生と本人に助成であり将来のことを考えると当団体の自立のための食事づくりに参加して勉強するように話して資料を渡しましたが本人にはあまりやる気がないように見えたが、施設でどのように卒業するまでにリービングケアをされて名古屋に就職をさせたのか大変心配をして先生に話をしても先生自身があまり意識が薄いようで少し今後の事もあり、先生にはきちんと話をし帰っていただきましたが、今後が大変気になるケースで何かあったら連絡をするように伝えておきました。

⑤社会的養護等出身者・大学生・施設職員等対象専門講座と食事づくり・懇談会(講座一部感想)

(1) 講師 宮治 紗穂氏(愛知県昭和荘母子生活支援施設母子支援員)の感想と意見

氏名(K・S)

母子支援員としての、子どもとの関わり方や考え方をお聞きすることができ、とても参考になりました。

特に印象に残ったことは、母親が子どもと一緒に生活しているのに、過去に受けた事等により、精神的に身体的に母子だけでは生きていくことが難しい現状があることでした。母親にもプライドがあり、日々葛藤しながら、より良くなるよう提案や、他人の意見をしっかりと聞き入れ、オンとオフの切り替えができていて尊敬できました。今日、いろいろ貴重な話をして頂いたことを活かして、今後のボランティア活動や成長に続けて行きたいと思えます。

氏名(T・J)

子どもとその親との関わり方を知った。厳しいところ苦しいところもあるそうだ。その仕事した上で生きがい、やりがいのことで自分がどう関わっていくのか、支援方法をチームワークで取り組むことを知った。

氏名(U・M)

保育士は園の中での生活の援助だけど児童養護施設のようにつらい顔やわがままなど素の自分を見せる生活の援助をするのはその人にとって大きな影響を与えるから1つ1つの接し方を大切にしたり、気を付けたりしないといけないと感じた。ほいくしになりたかった頃のじぶんはもっと考えを大切にしなきゃと思っていたけど一般企業を志望するようになってから母としての在り方を考えるようになっていく。だから母として子供の生活を支えていくために言葉の発し方を考えていきたいと思った。

**夕食づくりと専門講座(講演者 宮治紗穂氏)**





(2) 講師 坂部 望(愛知県三河児童・障害者相談センター児童福祉司)の感想と意見

氏名(F・K)

はじめて児童相談所の話聞いて、すぐにやめてしまうことだったり、大変なことであったり様々なことを学ぶことができました。

児相相談所の職員にも色々な方がいて、子どもの権利を意識している人やあまり意識していない人がいることも知り、自分も一度読んでみたいと思いました

仕事で悩んだ時のストレス発散の仕方であったり、困難の乗り越え方など、早めに見つけてストレスなく仕事をしたいと思いました。里親サポーターが18才から登録面接ができるそうなので一度お話を聞きたいです。親と関わる時怒鳴られると聞いて自分だったら絶対凄いストレスになってやめてしまいそうだと思ったんですけど坂部さんのように続けられている方がいるので本当に凄いなと思いました。坂部さんの言われた通り卒業したらまずはやりたいことをやって、その仕事に向いていなかったりしたらまた新しく仕事を探して自分に向いたところを探していきたいです。実際にけがをした子どもや親と引き離れた子どもを見た事がないので見てみたいです。

氏名(T・K)

知らない事がまだまだたくさんあるなど改めて勉強不足を思い知らされました。

児相の役割の大きさについて改めて認識させられました。

特にそれぞれの子供の課題性、その回復・成長のプロセスをしっかりと守ってゆく必要があると改めて認識させられました。

氏名(T・T)

児童相談所の職員の質が一人一人違うのは子どもにとって不利益につながることを知り、もっと職員の質が一定になり、向上するように組織全体で考えていかなければならないと思いました。また、児童相談所の職員の6割が、1~3年目の若手社員だと聞き、とても驚きましたの離職率も高いことを知り、そういった、若手を支える取り組み、ケアを考えていかないと、児相に働きたいという人が、減ってしまうのではないかと思います。

右も左も分からない時に、いきなり現場に出され、親の問いに答えられないと、怒鳴られる。実態を知り、とても怖くなりました。ですか、11年続けられている経験を聞き、そして感じ、児相の職員として、小屋親、そして里親さん様々な人々と関わり、地域に貢献していきたいと考えました。仕事、そして、私生活、バランスを考えて、働くことも重要だと感じました。ストレスをためやすい仕事だと思うので、自分の性格を知ること重要だなと感じました。24時間当番の日があるのは、とても大変なことだなと思いました。家族の理解、協力を得ないとやっていけない仕事であると思いました。今日は本当に勉強になりました。



### 食事づくりと専門講座(講師:坂部望氏)



### (3) 講師 久野 恵雅氏(NPO法人ひだまりの丘) の感想と意見

氏名(F・M)

保育士は保育をするだけでなく子どもの家庭も豊かにすることが大切なことは療育の施設であったり、学校であったり、様々な場面で言えることだと感じました。子どもを主に考えることはとても大切だと思いますが、子どもと関わる上で家庭環境も含めて考えると考えないとでは支援の方法などが変わってくるのだと改めて思いました。子どもと関わる上で、子どもの感性はとても鋭く、感情一つをとってもしっかりと伝わるものなのだと言野さんのお話を聞いて思いました。子どもに考えさせることが大切で職員や大人はそれをサポートする立ち位置にいることが重要なのだと学びました。私自身の将来のことを考える上で、自分はどのような大人になりたいかということをしっかり考えていく必要があるのだと感じました。

氏名(S・M)

今日は当事者として話を聞かせてもらいました。幼少期5歳までお世話になり、家庭や家族に対しての思いも紆余曲折してきましたが、よい年齢ですが改めて、保育に携わる人達の思いや考えに触れて自身足りないことが何なのかを思いました。私が学生時代は、施設に居た頃のことには心の奥にしまわれて、それなりに学生生活を過ごしました。その中で思いを話し合うという時間はあったものの仕事や進路については適当でした。皆さんの話を聞き、仕事への希望や社会貢献をするという目的がはっきりしており、本当に見習いたいです。保育など人との関りが濃い仕事ばかりではないので、来月からは事務的な仕事でやっていく予定ですが、幼少期の愛着形成の問題課題をその中でどう乗り越えていけるかというのもあり、今申告ではあります。その中でボランティアという形も含めて、同じ催しに参加できるのはとても位置づけもできてホッとさせられます。皆さんお活動を応援しています。

氏名(S・Y)

何事にも一生懸命に物事に取り組んできた姿勢にとっても励まされております。子どもたちに関わり、幼い子どもたちにも関わり、その親類さんたちへの支援もさることながら、中高生以上の女の子たちの居場所作りも大切な事業だと感じます。性教育もとても大切です。そして性被害を繰り返すことなく予防教育の必要も感じています。出会いはとても大切、本当に必要な時に必要な出会いは、子どもたちにとってもやはり同じで、「困った時SOSを発信した時、どういうところに繋いでいったらよいかアンテナを持って、適切なところに紹介できると良いです。こじんまりとしたこのような交流で意見を聞けたり、色々と学ばせていただけるのも私にとっても有意義な時を過ごさせてもらっています。

### 食づくりと専門講座(講師:久野 恵雅氏)





#### (4) 講師 蛭沢 光氏(NPO 法人当事者団体なごやかサポートみらい)の感想と意見

氏名(S・T)

実際に自分の中で悩んでいたことの一つを晴らす事のできた、そんな講座だったように思います。質問の際に出ていた職員の方にあれ以上突っ込めなかったのも、僕自身が一人に魅力を感じていたことが一つ。それでも、人とのつながりの良さも知っていたからこそその質問でしたが、考えていた以上の答えだったと、失礼ながら思います。それは質問通り悩んでいた児童との接し方以上に、自分自身についても、一人に魅力を感じ、相談できずに悩んでいたことがありました。今では話せる人もいますが、今回の講座にてさらに前向きになれたように思います。とても貴重な時間でした。

氏名(Y・S)

蛭沢さんの自分史の語りから、幼少期に実親さんと暮らした記憶(お母さん)はないけど(自分が親になって)愛された感、大事にされた感を改めて感じる事ができた、いろんな人の手をかりて成長できたこと。「子どもたち主体、子どもたち主人公、自分たち決めていく」ことができれば→人のせいにならない。→進路にもやがてかかわってくることになるので重要。学びがありました。

- ・施設を出た子は→なかなか相談できないのが現状本当に不安なとき、誰かに相談できること大切ですが、そんな相談できる場が必要、信頼できる身近な人がいるといい。
- ・あたりまえのことがあたりまえにできるってイイネ!
- ・特異なことみつけられるように。たくさんたくさん蛭沢さんと、長谷川先生から学べることこれからもよろしくお願いします。・家庭的な雰囲気での交流がとても良かったです。ザックバランに質問で、答えてもらって良かったです。

氏名(Y・Y)

今日は始めて参加させて頂きました。実際に養護施設で育った蛭沢さんの話を聞き、親元で生活していたらするはずのない苦勞が分かりました。

そのような中でも、子どもの主体性を重んじる事、自分で決める事、支援者が情報を知り、子どもにとって、関わる大人の数は多い方がいいと私は考えておりますが、そのような視点で接することができるようになりたいと思いました。ありがとうございました。



チャリティスマイル



## 食事づくりと専門講座(講演者: 蛭沢 光氏)



### ⑥自立のための食事づくりに参加した将来社会的養護等施設をめざす大学生からの感想文

大学2年 M・N

私は今日食事作りをして思ったことは、全然できないとは思っていたけど、本当に何もできませんでした。包丁を使って皮をむくことは想像もしていなかったし、すごく難しかったです。1つ1つ分量を量ったり、いろいろ段取りよく進めるための計画をたててやっていることがすごく大変だということが伝わり先生たちにいわれたことをただやることしかできないことを実感しました。私達の就く仕事に食事を作るということはとても大切だし今からやっておかないと子どもと一緒に作るなんてことは不可能だし、ましてや作ってあげることもできないので、家で練習をコツコツしていこうと思います。

献立作りに必要なことは、バラエティー豊かにあること、季節を取り入れること、そしてたんぱく質が必要だと分かりました。”肉、魚、牛乳、卵”を取り入れること、アレルギーを気にしないといけないこと、それは生命にかかわることをまかされているんだという意識を持って子どもに作る必要があるだと知りました。

今日は、私たちのために聞いてくださってたくさんの知識を増やせる機会を作っていただきありがとうございました。また、よろしくお願いします。

#### 大学2年 O・M

今日初めて食事作りに参加して、あまり経験のなかったことなので新鮮に感じました。アルバイト先で包丁を使ったりしているけれど、まだまだ切り方とか知らないことだらけだなと思いました。もっともっといろいろな料理を覚えたいと思ったし、上手になりたいと思いました。

一番気を付けている衛生面に関しては今まで何も気にしていなかったタオルのことや生物を切る時の手袋をつけるなどたくさんのことを学びました。自分の中では気を付けていると思っていても見えないところにたくさん菌は潜んでいるんだなと思いました。分かりやすく優しく指導していただいたのですごく楽しくおいしく出来たので良かったです。就職のためにはもちろん、1人の女性としても今日はとても勉強になりました。

#### 大学2年 K・M

今日はありがとうございました。今まで家で料理することもあまりないので、こんなに細かく一から作るのは高校の家庭科の授業以来です。家でいつも母が作ってくれる料理では野菜の切り方など、毎回同じでそれが当たり前だと思っていたので、今日、違う切り方をしてみて、それによって食感や、見た目も変なのでその時の気分や料理によって変えてみるのはすごくいいと思いました。

今日は残念ながら、子どもたちはいませんでしたが、料理教室みたいで、料理の味の事や作り方だけでなく、衛生の問題や今まで自分たちが気にせず、当たり前に行っていた事がまだまだあまかったのだと思い、これから子どもたちと関わるにあたって絶対に気を付けていかないといけない事だと思えました。これを機に家でも作りたいですし、お弁当からでもいいので毎日何かを作る習慣をつけていきたいと思えました。

ぜひまた来たいです!

ありがとうございました。

#### 大学2年 K・Y

料理を普段ほとんどやっていなかったなので、緊張していましたが、優しく指導していただいて、仲の良い友達と楽しく作ることができました。

ここで施設の子どもたちと関わって、その施設にボランティアに行くと、そういうつながりを持って、将来の目標に近づけていきたいです。

アレルギーに関するお話も聞けたので、詳しく勉強しようと思えました。

#### 大学2年 S・M

私は普段家で、土日に姉と料理をすることがあるので、そこまで困ることはないだろうと思っていましたが野菜の切り方一つをとっても知らないことがたくさんありました。冬瓜汁も、おダシを昆布とかつお節から取り、全で一から作りました。家では一食分全て自分だけで作ったことはなかったので、今回は5人と先生2人で作りましたがそれでもやるのが沢山あり用量よく手際よく作業することが大切なんだと実感することができました。

最後、先生方からのアドバイスで料理を作ると同時に洗い物もできるとムダがなく進められるよと教えて頂き、今後自分が家で料理をするときも心がけていきたいなと思えました。





### ⑦社会的養護の下で暮らす高校生対象大学等助成制度説明会

開催日時：2019年6月23日(土)13:00～16:30

当日60名が参加していただきました。先輩の当事者からは経験談を話してくれました。奨学金については分かりやすく説明をしてくださいました。最後に高校生を含めて参加者からの質問に先輩・奨学生を支援しているソーシャルワーカーからのお話を伺うことが出来ました。

共催者である当事者団体みらいからはあらゆる給付型奨学金のお話と奨学金の申請の仕方や使い方等話していただきました。参加された方からは、色々と勉強になったとの意見が寄せられています。以下の写真は当日の様子と参加者の感想文を掲載させていただきました。

#### 社会的養護の下で暮らす高校生対象大学等助成制度説明会風景









### <説明会でのグループディスカッションでの感想>

- ・奨学金についての基本的な内容、何から始めればよいかとても参考になりました。
- ・施設からの進学、本人は大人が思うより色々なことを考えていることが分かった。
- ・具体的な内容でお話が分かりやすかったです。
- ・奨学金の情報がうすく、こうした資料や情報が欲しかった。
- ・進学をすることがどれだけ大変か聞いて良かった。
- ・給付型の奨学金にも沢山種類があることを知った。
- ・色々な体験を聞いてためになることがあった。
- ・皆、色々な夢や考えることがあって話していて楽しかった。
- ・お金の使い方についてアドバイスになった。
- ・助成制度についてある程度、理解できました。
- ・さまざまなお話が聞いて良かった・
- ・不安なことが多く、話をすることで解決できた。
- ・色々な過程を知れてよかった。
- ・自分の意見が言えた。
- ・それぞれの内容が充実していた。
- ・奨学金について意識が高まった。
- ・経験を沢山知ることが出来た。
- ・同じ高校生の方たちの話を聞いて良かった。
- ・初めて参加したけどいい経験委なった。
- ・もう少し時間が取れると良かった。
- ・当事者の貴重な意見が聞け、「大変勉強なった。
- ・現状が分かった。
- ・把握できていないものも多かったので、子どもたちに示す材料となった。
- ・生の声が聴けてとても寄った。もう少し深く聞きたかった。
- ・里親、施設関係者当多様な立場の方が参加され討議が盛り上がり勉強なった。
- ・色々な制度が理解しやすくとっても勉強になった。
- ・色々な人の意見を聞いて自分だけが感じていることではないと感じました。
- ・普通では聞けない貴重な体験談を聞かせていただいてとても勉強になりました。
- ・リアルなお話で心がゆさぶられました。

## ⑧全国の社会的養護等当事者を支えるイベント⑧

【11月30日（土）名古屋芸術大学東キャンパス アッセンブリホール】

協賛：ソフトバンク・チャリティースマイル第3回「安心して社会に巣立とう応援助成」  
大和ネクスト銀行（応援定期預金）・第3回子供の未来応援基金



## 全国の社会的養護等当事者を支える⑧

**参加料無料**

### 社会的養護とは

社会的養護とは、保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことです

社会的養護は、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」を理念として行われています。

### イベントの目的

第8回目となる全国の社会的養護等当事者を支えるイベントを今年も名古屋芸術大学を会場に11月30日（土）に開催します。当イベントは子ども虐待防止アピールと一般の方への理解を求めるとともに今年の内容としては午後から大阪の「こどもの里」理事長の庄保共子氏から「いつも子どもたちの命をど真ん中に」をテーマに講演とDVDを鑑賞していただきます。14：30からは社会的養護等出身者とファミリーホーム出身者と庄保さんによるトークショーを企画しました。多くの皆さんの参加をお願いいたします。12：30までに来られた方には名古屋芸術大学の学生食堂で昼食を食べることが出来ます。（原則として事前申込をお願いします）

### 開催時間

11：30～16：00

### 参加者への昼食を提供

当日事前に申し込み者の方全員に、名古屋芸術大学の学生食堂で昼食を無料で提供させていただきますので、参加人数を11月17日（土）までに同封の申込書に記入されてファックスにてお送りください。

### 会場

名古屋芸術大学東キャンパス1号館 アッセンブリホール（7階）

### 開催日

2019年11月30日（土）

## 主 催

特定非営利活動法人子どもサポートネットあいち

## 連携団体

今まで当団体の事業等に協力・支援をいただき連携施設として協力をしていただいています団体は 43 団体あります。

## 協 賛

ソフトバンク・チャリテースマイル第3回「安心して社会に巣立とう応援助成」  
大和ネクスト銀行（応援定期預金）・第3回子供の未来応援基金

## 後 援

愛知県・名古屋市・名古屋市児童養護連絡協議会・愛知県児童福祉施設長会・名古屋市親和会・愛知県里親会連合会・虹の架け橋～養育者を支援する里親家庭養護の会・NPO 法人なごやかサポートみらい

## 第 一 部

- 11:30～ 名古屋芸術大学東棟（到着後受付をお願いします。）集合
- 11:30～12:30 学生食堂に移動していただき昼食
- 12:30～13:00 7階ロビーにて遊びコーナーで学生と一緒に遊びましょう

## 第 二 部

- 13:00～13:10 オープニング・主催者あいさつ
- 13:15～15:15 いつも子どもたちの命をど真ん中に  
～「こどもの里」荘保共子さんの40年～
- 15:25～16:25 社会的養護等出身者とファミリーホーム出身者と荘保さんによるトークショー
- 16:30 終了





## 子育て発達相談室の活動

### 1. 沿革と支援内容

子育て発達相談室は当 NPO こどもサポートネットあいちが重視してきた取り組みの一つです。当初の構想としては乳幼児期の気になる子ども達のサポートを考えていましたが、学齢期の学習支援に対する要望が強く、それに応える形で子育て発達相談室における実践を行ってきました。

名古屋市にある当相談室をご利用になられる方の社会資源の活用はさまざまですが、名古屋市の療育センターで発達上の相談とサポートを受けられ、学校の支援教室で集団適応上の支援を受け、学習面では公文式の塾を利用することによって基礎学力を付け、体操教室、水泳教室、クッキング教室、絵画教室に通うことによって自らの手足を使つての活動を経験し、大学等の支援サークルの行事などによって社会参加を経験させてあげるなどいろいろな工夫をしておられます。また当事者の方々の自助グループもたくさんあり、それぞれの団体が活発に活動をされており、保護者の方々同士での支え合い、情報交換もよくおこなわれています。保護者の方々のお話によれば現在地域にはさまざまなサポートが充実し、またハンディを持った子ども達への学校の理解、支援は当相談室によるサポートを開始したことによって充実してきているとのことでした。

子ども達はこのようにさまざまなサポートの中から多くのものを身に付けてゆき、また保護者の方々もさまざまな専門的な知識・助言を得ることができます。しかしこうした既存のサポートではむづかしい問題もあります。さまざまなハンディ、中でも“発達しょうがい”と呼ばれる子ども達の多くは自分のスキルや学んだ知識を取りまとめて、何らかの表現あるいは結果を出してゆくことが苦手な子ども達がよくいます。それは文章読解や作文、あるいは情緒・芸術的な表現・鑑賞、登場人物の気持ちの理解の弱さとして現れることがよくあります。ですから保護者の方々の要望として物語を理解して楽しみ、また自分の気持ちや考えを表現できるようなオーダーが出されることとなります。当相談室の支援はほとんどこれになります。そこで何らかの回答をおこなうということは文章表現が中心になるので内的イメージの表出を保障することになり、そのことが自信につながることもあります。

また保護者の方々にはさまざまなサポートを受け、また同じ問題をかかえる保護者の方々との交流の中でさまざまな情報を受け取りますが、それら複数の情報は時として整合性が欠けることがあります。当相談室の相談時間は1時間半とたっぷり取っており、また充足率も半分くらいなので次のコマが埋まっていないことも多く、じっくりと時間をかけて一緒にその子どもの課題を整理してゆくことが可能です。



## 社会的養護等退所前児童と退所後の児童への支援事業チラシ

ソフトバンク・チャリティースマイル「第3回安心して社会に巣立とう応援助成」

# 社会的養護等退所前児童と 退所後の児童への支援事業

全国の社会的養護等出身者の皆さんへ、  
進学・就職・転居等で名古屋に来られた方が悩んだり、  
困った時にいつでも気軽に、居場所&相談事業をご利用下さい



≡ ご心配な方は出身施設と連携を取ります ≡



### 相談事業の目的

当団体は11年前から社会的養護等施設出身者を含めて現在施設にいる児童に対しても支援をしていました。支援内容としては、社会的養護で生活した当事者が自立するにあたって、それぞれが抱えている問題を明確にし、当該地域における自立支援の定着と全国への展開をすることを目的に社会的養護等の当事者の自立支援相談事業を行うための電話および来所相談事業(宿泊・再就職等)を中心に行っています。

今年度第3回ソフトバンク・チャリティースマイル「安心して社会に巣立とう応援助成」をいただきましたので、活動内容の幅を広めたいと社会的養護等施設の子どもや社会的養護等施設を退所された他府県から進学・就職・転職等で名古屋に来られてご不安の方への支援を側面的に援助させていただきますので、お気軽に相談に来て下さい。

**悩みごと・相談ごと等気軽にご相談下さい。**

### 相談内容



- 他府県から来られた方で施設出身者・里親出身者等で相談できず悩んでいる方
- 他府県から来られた方で進路等に悩んでいる人、相談したい社会的養護等当事者の方
- 他府県から来られた方で再就職や職場での問題で悩んでいる社会的養護等退所者の方
- 他府県から来られた方で生活問題・自立支援等相談をしたい社会的養護等当事者の方
- その他、他府県から来られた方で社会的養護等施設や里親等のことで相談をしたい方



NPO法人

こどもサポートネットあいち



## 社会的養護の下で暮らす高校生対象大学等助成制度説明会のチラシ

第21回

主催：NPO法人こどもサポートネットあいち  
共催：NPO法人なごやかサポートみらい

夢とみらいを  
共に描こう！

mirai

# 社会的養護の下で暮らす 高校生対象大学等助成制度説明会

平成23年度～スタートした説明会も今年で9年目を迎え、これまで多くの方々にご参加頂きました。引き続きより良い会になるように取り組んでいきますので宜しくお願い致します。この度「第21回社会的養護の下で暮らす高校生対象大学等助成制度説明会」を下記の内容で開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

**日時** 2019年6月23日(日) 13:30～16:30 ※13:00より受付開始

**会場** ウィルあいち2階 セミナールーム6  
〒461-0016 名古屋市東区上野杉町1番地  
TEL: 052-962-2511 (代表)

地図



【交通案内】

地下鉄「市役所」駅 2番出口より東へ徒歩約10分  
名鉄瀬戸線「東大手」駅 南へ徒歩約8分

【お願い】

※有料駐車場はありますが、限りがありますので  
公共交通機関をご利用ください。

**対象**

社会的養護の下で暮らす中学生・高校生、施設等退所者、児童養護施設職員、里親、児童相談所職員  
高校の進路担当教員、児童福祉等担当の大学教員等

**定員**

50名 ※定員になり次第締め切りますので早めにお申込ください。

**参加費**

無料

**内容**

13:30～主催者・共催者あいさつ

13:40～奨学金制度の説明とアドバイス～実体験を踏まえて～

水野 梨沙さん(岐阜県内児童養護施設出身・Lalaの部屋相談員)

14:10～先輩が語る進学「社会的養護での生活・入学までの取り組み・近況報告・将来の夢等」

滝澤 ジェロムさん(名古屋市内児童養護施設出身・日本福祉大学2年生)

長谷川 恵さん(名古屋市内乳児院出身・特別養子縁組・児童養護施設職員3年目)

14:50～休憩

15:00～グループ討議(児童と大人は分かれます)

16:00～まとめ 鯉沢 光(NPO法人なごやかサポートみらい理事長)

16:10～閉会のあいさつ アンケート記入

16:30 終了予定

申し込み&  
お問い合わせ

NPO法人こどもサポートネットあいち

TEL/FAX: 052-912-7101

NPO法人なごやかサポートみらい

TEL/FAX: 052-718-7188

協賛：ソフトバンク・チャリティースマイル第3回「安心して社会に巣立とう応援助成」  
キリン・地域のちから応援事業 大和ネクスト銀行(応援定期預金) 第3回子供の未来応援基金



## 全国の社会的養護等当事者を支える⑧のチラシ

協 賛:ソフトバンク・チャリティースマイル第3回『安心して社会に巣立とう応援助成』  
大和ネクスト銀行『選べる預金』応援定期預金による寄附金/第3回子供の未来応援基金  
キリン・地域のちから応援事業

参加費  
無料

# 全国の社会的養護等 当事者を支える⑧

### 社会的養護とは?

社会的養護とは、保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことです。社会的養護は、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」を理念として行われています。

### イベントの目的

第8回目となる全国の社会的養護等当事者を支えるイベントを今年も名古屋芸術大学を会場に11月30日(土)に開催します。当イベントは子ども虐待防止アピールと一般の方への理解を求めるとともに今年の内容としては午後から大阪の「こどもの里」理事長の荘保共子氏から「いつも子どもたちの命をど真ん中に」をテーマに講演とDVDを鑑賞していただきます。  
15:25からは社会的養護等出身者とファミリーホーム出身者と荘保さんによるトークショーを企画しました。多くの皆さんの参加をお願いいたします。11:30までに来られた方には名古屋芸術大学の学生食堂で昼食を食べることが出来ます。(原則として事前申込をお願いします)

### 開催日

11月30日 2019年 土

### 開催時間

11:30~16:30

### 会 場

名古屋芸術大学東キャンパス1号館  
アセンブリホール(7階) 地図参照下さい

主 催 特定非営利活動法人こどもサポートネットあいち

連携団体 特定非営利活動法人子育て支援のNPOまめっこ、特定非営利活動法人そよ風、特定非営利活動法人全国こども福祉センター、岡崎平和学園、風の色、中日青葉学園、誠心寮、日本児童育成会、合掌苑、天理教三重互助会、エスペランス四日市、愛知しらゆり荘、特定非営利活動法人ひだまりの丘、名古屋童話協会、とうかいグットイ委員会、エスペランス桑名、子ども家ともいき、Happy family、愛知昭和荘、自立援助ホームOhanaの家、NPO法人CAPNA、自立援助ホームつばさ、児童心理療育施設 悠、ファミリーホームわが家、慈友学園、名広愛児園、名古屋養育院、和進館児童ホーム、光輝寮、照光愛育園、名古屋文化センター、松籟荘、八波寮、梅ヶ丘学園、いせ子どもの家、白鳩学園、みどり自由学園/今まで当団体の事業等に協力・支援をいただき連携施設として協力をしていただいております団体は43団体あります。(現在も連携団体募集中です。)

後 援 愛知県・名古屋市・名古屋市児童養護連絡協議会・愛知県児童福祉施設長会・名古屋市親和会・愛知県里親会連合会  
虹の架け橋~養育者を支援する里親家庭養護の会(申請中)  
NPO法人なごやかサポートみらい

### 第一部

11:30~ 名古屋芸術大学東棟(到着後受付をお願いします。)集合  
11:30~12:30 学生食堂に移動していただき昼食  
12:30~13:00 7階ロビーにて遊びコーナーで学生と一緒に遊びましょう

### 第二部

13:00~13:10 オープニング・主催者あいさつ  
13:15~15:15 いつも子どもたちの命をど真ん中に~「こどもの里」荘保共子さんの40年~  
15:25~16:25 社会的養護等出身者とファミリーホーム出身者と荘保さんによるトークショー  
16:30 終了



NPO法人『こどもサポートネットあいち』  
TEL&FAX (052)912-7101



## 全国の社会的養護等当事者を支える⑧ イベント風景

協賛：ソフトバンク・チャリティースマイル 第3回『安心して社会に巣立とう応援助成』  
大和ネクスト銀行『選べる預金』応援定期預金による寄附金／第3回子供の未来応援基金  
キリン・地域のちから応援事業

参加費  
無料

# 全国の社会的養護等 当事者を支える⑧

開催日

11月30日 2019年 土



施設出身者の当事者の語り



荘保理事長さんを囲んで施設生活のお話



大阪の釜ヶ崎に子供の里を設立させ、子どもたちを巻き込んで地域の活動報告



施設出身者からは施設生活の大変さ吐き出した後の生き方を聞き感動しました





## 全国の社会的養護等当事者を支えるイベント

### 荘保 共子氏 しょうほ ともこ

兵庫県宝塚市に育つ。聖心女子大学卒業。  
認定NPO法人・地域包摂こども支援センター「こどもの里」理事長



#### 講演テーマ

いつも子どもたちの命をど真ん中に

～「こどもの里」荘保共子さんの40年～ を聞いての感想

①

〈釜ヶ崎の子どもたちが暮らしていたこと〉  
子どもたちの生活様式から荘保さんが知った子どものモラルについて特に印象に残ったこと  
特に、野宿のおぼろげを小学生の女の子が助けようとする場面等の話については、  
人の繋がりと力を感じたことも、自分には出来ないことだと思ったり  
本当に助けなければいけない時に、自分も助けたいと思えるようには関わりたいと思  
う身についていることを考えた。

②

問題行動を共にするのは、問題児ではなく問題は人がなす国、これは  
子どもがある言葉が印象に残ったこと。身元という事が子どもに  
とって、問題を人がなす国、これは子どもにとり、これは大切なことであると  
思った。自分が子どもに関わる職業に就く前に「何をしたいか」と考えた。例えば、  
問題は決して開かなく、子どもに関わり、身元を中心に、一緒に  
解決していく助けになる事ができるようにしたいことを考えた。

#### 2. 全体の感想

今回の子ども、保護者と関わり、2つは関係性を聞いて、1つは自分自身が  
現場で感じたこと、感じたこと、知らなかったことを学んだこと  
「おぼろげ」は、今回の関わりの中からは、子どもたち～と関わり、解決していくこと、  
現場に話をして、自分の経験や関わりから生かしていくという思いを感じたこと。  
自分自身が、これから関わり、していく中で、自分自身が成果を出せるように学んで  
いきたいことを考えた。

